



# HOKKAIDO UNIVERSITY

|                  |                                                                                   |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | 巻頭言                                                                               |
| Author(s)        | 芒亭                                                                                |
| Citation         | 各務同窓会報, 32                                                                        |
| Issue Date       | 1942-01                                                                           |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/77697">https://hdl.handle.net/2115/77697</a> |
| Type             | article                                                                           |
| File Information | A010_0332S171.pdf                                                                 |



# 新設獸醫學科校舎

## 新設獸醫學科校舎



昨年の卒業式の日だつたと思ひますが、袂別の挨拶に來た新卒業生の一人に私は次の様な句を式紙に書いて贈りました。

又一騎 征くや興亞の 春の陣

此の句を見れば應召して出陣する人に贈つた様に思はれますが、其の卒業生は出征する人ではなかつたのです。今誰れでもさうである様に、其の人も卒業してすぐ就職する人だつたのです。私が就職する人に出征の時の様な句を贈つたのは、就職して職域奉公に従事する人も、出征する人も、共に興亞の陣營に参加するのだと思つたからでした。

職業は自己一身の生活の爲ではなく、それによつて國家に奉公する實踐形式であると云ふ事を、今こそ誰もがはつきりと識つて居る様であります。よく云はれる事であるが、獨逸語の Beruf と云ふ言葉や英語の Calling とか Vocation と云ふ言葉も、「神のお召し」と云ふ様な意味から職業と云ふ文字になつて居ます。然し言葉の語源がどんなものであつたにしても、歐米の個人主義的な國では職業は個人の生活の問題としてののみ考へられて居る様です。職業はそれに従事する事によつて神のお召に應ずる所以と、全体に奉仕する所以と云ふ様な考へ方は現在我が國に於いて最も鮮やかに生きて居る様に思はれます。それは我々に於いては職業奉公とか國民義務と云ふ形に於いて體驗されて居ます。

卒業生諸君は現在多様な職業に従事し又年々多數の新鋭を加へて居ますが、それ等の同窓生諸君が皆それ等の立場に於いて職業の誠を盡して居られる事を思ふと、力強いものを感じます。皇國の大きな歴史的進展の中に諸君が各々一役をかつて出て居る事を思ふと、壯麗な感じもします。

近く又春を並べて一頁餘、校門を去つて出て行きます。良き先達として指導してやつて下さい。

| 目次          |    |
|-------------|----|
| 卷頭言         | 一  |
| 新設獸醫學科校舎紹介  | 二  |
| 第一研究室       | 三  |
| 第二研究室       | 三  |
| 第三研究室       | 三  |
| 第四研究室       | 三  |
| 第五研究室       | 三  |
| 第六研究室       | 三  |
| 戦後便り        | 四  |
| 戦死者遺族便り     | 六  |
| 海風          | 六  |
| はちすのつゆ      | 六  |
| 三樹立也        | 九  |
| 昭和十六年度代表委員会 | 一〇 |
| 昭和十五年度決算報告  | 一五 |
| 昭和十六年度豫算案   | 一七 |
| 支部便り        | 一八 |
| 母校便り        | 二〇 |
| 編輯後記        | 二六 |

生澤萬壽夫 經川 親正  
杉原 弘人 原田 格三  
鈴木 決夫 村田 晉  
奥村 君平 堀 敏男  
宮崎 勝人 吉野 末雄  
足立 茂 成瀬 明至  
遠藤 尚道 田中 茂穂  
尾崎 澄男 横山 京一  
佐藤 行孝 吉田 廣務  
八尋 清彦 小澤 尚久  
榮國 一郎 中居 健彦  
石橋 之郎 平松 利八  
清水 寛 木村 輝郎  
森 健 原田 孝次郎  
堀田 孝次郎 伊藤 貞  
馬 永川 川瀬 浩一  
武藤 敏之 西石垣邦夫  
堀部 有三 宮崎 榮  
金川 泰風 木戸 一郎  
高谷 實 塚越 勲  
松浦 茂

られ岐阜の話など致し候事がせめてもの慰めに御座候當地に住む同窓會員諸兄には絶えず御日に懸り居り候第一回の青楓君が満洲旅行の歸途に、第八回の正木君が北支より内地に旅行の途次に、又清津に住む第八回の道亮君、大邸に居られし第十二回の田中(岩男)君など懇々御來訪致し下如何ばかりかうれしく感じ申し候山に居る第七回の久保君、太田に居る第四回の井上君、咸南に居る第十五回の平澤君等にも御日に懸り候其後岐阜高農は小瀬校長の統率の下に更々整備充實致し居り候由をれが何より嬉しく存じ候岐阜同窓會高農と聞けば思はずはつと致し候小生事他に能なき者なれども學問報國に精進致し居り候へ共思ふにまかせず御取しき次第に御座候京城に來てからは未だ一回も魚釣りに參らず候此頃水結して居る漢江の水上に穴を穿ち鮒を釣る人多く見受けられ候由に御座候へ共、寒むがりの小生は話を聞いた丈でも縮み上り居り候當地の寒さは流石に物凄く去る十一日には零下二十二度に降り候易致し候然しお蔭をもつて當地に來て以來比較的健常には恵まれ居り候去年初秋に赤痢に罹り一ヶ月餘病臥致したる外には、餘り大した病氣も致さず元氣に致し居り候

此後同窓會員諸君には大陸に往復される機会は多かる可く候間京城御通過の際には何卒御立ち寄りの程願ひ上げ候  
先は御禮芳々進呈申し上げ候  
敬具  
一月二十八日  
鈴木榮太郎  
各務同窓會御中

植村英雄氏逝去さる  
元本校書記植村英雄氏は前病氣發症中の四月四日逝去被遷る  
氏は本校創立當時より會計課に勤務せられ、傍ら岡山と歸して尺八を能くし同好の學生多量に氏の門に入入して懇切なる指導に接し寛容なる態度を以て學生間に親しまれてゐた。

昨年四月廣島商船學校に會計課長として轉出されるまで本校在勤實に十八年間に及び氏の功績多大なるものがある依つて氏を知る有志の各位より弔慰金を集めいたし度く御賛同を請ふ次第である。

因みに長男雄一君は本校林學科第二學年在學中である。

(奥様は 富山市曙町八  
植村修方植村千代様である)